

YONEYAMA SCHOLARSHIP ALUMNI ASSOCIATION KANSAI
国際ロータリー第 2660 地区
米山奨学生学友会(関西)

2024-2025

目次

1	「広げよう・米山の絆」——未来へつなぐ学友の力	吳 偉偉 (2010-2011,青森東RC)
2	ガバナーからの祝辞	大橋 秀典 ガバナー (大阪東RC)
3	米山奨学生学友会（関西）40周年メッセージ	辻本 啓之 委員長 (大阪城北RC)
4	米山奨学生ガテイさんとの交流を通じて	嶋田 健一 (交野RC)
5	奨学生としての学びと成長	EDRIC WILBERT (2024-2025,吹田RC)
6	メンティーと紡ぐ、小さな一步からの絆	趙 航 (2019-2020,宮崎北RC)
7	メンティーとして「言葉を超える、心で繋がる」	AYE NYEINT KO (2024-2025,大阪ユニバーサルシティRC)
8	米山バンドについて	劉 德瑜 (2024-2026 ,大阪中之島RC)
9	新たな一步を支える日—1月18日の選考会を通して	SHRESTHA, SUMAN (2020-2022,大阪西北 RC)
10	オリエンテーション	吳 偉偉 (2010-2011,青森東RC)
11	勉強会を終えての振り返り	王 怡静 (2024-2025 ,大阪西南 RC)
12	「広げよう・米山の絆」始動！2024年度総会開催	吳 偉偉 (2010-2011,青森東RC)
13	夢の舞台で心がつながる～宝塚観劇レポート～	秦 莉 (2024-2025 ,大阪東RC)
14	「米山ボランティア交流会 in 輪島」に参加して	金 ダソル (2024-2025,高槻東RC)
15	エンドポリオー私にできるボリオ支援	LE NGOC QUYNH NHU (2024-2025,大阪RC)
16	ボリオデーイベント報告	VO NU TRUONG GIANG(2019-2021,摂津 RC)
17	笑顔と音楽に包まれたクリスマス会	申 ユリ (2019-2021,豊中南RC)
18	「子どもたちの笑顔は、私たちへの贈りもの」	HO DIEU LY (2023-2024,大阪御堂筋本町RC)
19	ロータリー米山の「愛」と「恩」	TRAN THU HA (2023-2025 ,枚方RC)
20	楽しく一緒に	李 知浄 (2024-2025,東大阪東RC)
21	卓話を通じて伝えたかった思い	VO NU TRUONG GIANG(2019-2021,摂津 RC)
22	第2660地区ロータリー地区学友会の活動について	賴 香奈依(2006-2007,やまと西和(旧王寺)RC)
23	関西米山学友会40年のあゆみ	何 玉翠(1987-1989 ,奈良RC)
24	2024年度決算書	2024年度決算書
25	2025年度予算書	2025年度予算書
26	現役奨学生名簿	
29	役員名簿	

「広げよう・米山の絆」 —未来へつなぐ学友の力—



米山奨学生学友会 会長
2010-2011
青森東RC
中国

吳 偉偉

こんにちは。関西米山学友会会長を務めております、中国・内モンゴル出身の吳 偉偉と申します。

今年、関西米山学友会は40周年という大きな節目を迎えました。これまで長きにわたり、ロータリアンの皆さま、そして多くの学友・奨学生の皆さまの温かいご支援によって活動を続けてこられたことに、心より感謝申し上げます。

私は2007年に中国・内モンゴルから来日し、青森大学に在学していた2010年から2011年にかけて、米山奨学生としてご支援をいただきまし

た。言葉や文化の違いに戸惑う中、ロータリアンの皆さまとの交流は、日本社会を理解するうえでかけがえのない学びの機会となり、私の人生において大きな転機となりました。

奨学期間が終った後、仕事の関係で関西に移り、学友会活動を通じてさらに多くの出会いや経験を重ねてまいりました。その中で、「米山の絆」は生涯にわたるご縁であることを深く実感しております。

米山奨学生制度は、他の奨学生制度とは一線を画す、まさに唯一無二の存在です。経済的な支援にとどまらず、「国境を越えて人と人が理解し合い、友情を育みながら、次世代の国際人を育てる」米山奨学生こそが、平和をつくるため本当に素晴らしい奨学生制度であると私は確信しております。

現在、世界には43の米山学友会があり、24,000人以上の学友がそれぞれの母国と日本とのつながりを大切にしながら、各国でリーダーとして活躍しています。その中で、世界で3番目に設立された関西米山学友会の会長という重責を担

わせていただけることを、たいへん光栄に思っております。

多くの優秀な学友たちとともに活動を牽引するプレッシャーも感じつつ、役員の皆さんと力を合わせ、関西米山学友会をさらに盛り上げていきたいと決意しております。

本年度のテーマ「広げよう・米山の絆」のも

と、私たちは地域や世代を超えたつながりを意識しながら、さまざまな活動を展開してまいりました。その一つが、国際ロータリー第2610地区（富山・石川）の米山学友会と協力し、能登半島地震で被災した子どもたちを支援する寄付活動です。遠く離れた地域の仲間と心を一つにして取り組むことで、米山学友ネットワークの温かさと力強さを改めて感じることができました。

また、ローターアクトクラブの例会やイベントにも積極的に参加し、次世代を担う若者たちとの交流を通じて、米山の理念や活動の魅力を共有しています。受け継がれてきた「絆」を次の世代へつなぎ、共に未来を築いていくことこそが、今の私たちにできる最も大切な役割であると感じております。

そして現在、2025年大阪・関西万博が開催され、国内外から多くの人々が日本を訪れています。この国際的な機運の中で、米山学友会もまた、人と人とのつながりを通じて、文化や価値観の違いを超える役割を果たしていきたいと考えています。

最後になりますが、40年の歴史を礎に、私たちはこれからも「米山の絆」を未来へと広げ、平和で持続可能な社会の実現に貢献していきたいと考えております。そして、その想いに共感してくれる学友やロータリアンの皆さんとともに、これからも一歩一歩、歩みを進めてまいりたいと願っております。

ガバナーからの祝辞



国際ロータリー第2660地区
2024 - 25年度
ガバナー
大阪東RC

大橋 秀典

米山奨学生学友会（関西）の皆さん、40周年おめでとうございます。そして、いつも地区の様々な活動でお世話になりましたありがとうございます。

奨学生のオリエンテーションやレクリエーション、面接や終了式など当地区のあらゆる米山奨学生に関わる行事は、学友会（関西）の力無しには成り立たません。私たちロータリアンが担う「世話クラブ」や「カウンセラー」の制度は良いものですが、どうしても奨学金を間に挟むため、奨学生にとってはちょっと重いものになります。しかし学友会の「メンター制度」で「お姉さんやお兄さん」のような話やすい先輩ができ、より相談しやすい環境を作れていると感謝しています。

学友会の皆さんの「米山の愛」が奨学生に伝わり、またその奨学生達が米山の「絆」を引き継いで行ってくれていると感じています。

学友会（関西）は、以前から熱心に災害時の復興支援にも取り組んで頂いていますが、今年度は、国際ロータリー第2610地区米山奨学生学友会と組み、能登半島の復興支援をして頂きあ

りがとうございました。また、2回目となった10月の「END POLIO NOW FES」では、フードコート担当としてフェスを盛り上げて頂き感謝しています。それぞれの青少年グループが手探りしながら事業を進める中、米山奨学生学友会（関西）が良いお手本となり推進出来た様に感じます。今後とも、当地区的ロータリーファミリーの潤滑剤として、また米山奨学生のみならず、青少年グループ全般の大先輩としての活躍を期待していますので、どうかよろしくお願ひいたします。

20年にわたり学友会（関西）のリーダーの一人として活躍された林小微さんが昨年末に急逝されたこと、大変残念です。しかし、彼女が永年学友会（関西）のみならず米山奨学会に残されたご功績は、決して失われることはありません。これから多くの奨学生に受け継がれていくと確信し、ご冥福を心からお祈りしたいと思っています。

林さんの想いを胸に、米山奨学生学友会（関西）の皆様方の今後ますますのご活躍、学友会（関西）のご発展を心よりお祈りしています。

米山奨学生学友会（関西） 40周年メッセージ

謹んで、米山奨学生学友会（関西）の創立40周年を心よりお祝い申し上げます。この節目の年を迎えるにあたり、貴会が長年にわたり築いてこられた輝かしい歴史と、国際交流および社会貢献への搖るぎない献身に、深い敬意を表します。また、平素より米山奨学生事業に多大なるご理解とご協力を頂きありがとうございます。米山記念奨学金は、ロータリーの創始者であるポール・ハリスが提唱した「超我の奉仕」の精神を体現する事業であり、国際的な人材育成を通じて平和と相互理解を促進することを目指しています。米山奨学生学友会（関西）は、奨学生OB・OGが互いに支え合い、地域社会や国際社会に貢献する活動を展開してきました。特に、関西ならではの温かさと多様性を活かした交流活動は、多くの人々に感動と希望を与え、米山の理念を具現化する素晴らしい実績を残しています。40年間という長い年月、貴会は奨学生としての経験を糧に、世代を超えてつながり、互いを励まし合い

ながら、数々の意義深い活動を推進してきました。奨学生選考会、オリエンテーション、レクリエーション等の奨学生関連事業につきましてスムーズな運営へのご協力 大変感謝しております。また、地区大会、ポリオデーイベント等の地区関連行事に関しましても積極的にご参加いただき、RACをはじめ、ロータリー学友との交流も益々広がっていくと期待しております。地区米山奨学生委員会としても、貴会の活動に心から感謝申し上げるとともに、今後も引き続き連携を深め、米山の精神を未来へつなぐパートナーとして共に歩んでまいりたいと存じます。40周年という記念すべき年を機に、貴会がさらに飛躍し、新たな挑戦を通じて、より多くの人々に希望と絆を届ける存在となることを確信しております。結びに、米山奨学生学友会（関西）の皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げますとともに、貴会の今後ますますのご発展を祈念し、40周年のお祝いの言葉といたします



国際ロータリー第2660地区
2024 - 25年度
米山奨学生委員会委員長
大阪城北RC

辻本 啓之

米山奨学生ガティさんとの交流を通じて

交野RC
カウンセラー
2023-2025
米山奨學生 姜 雅婷

嶋田 健一

彼女は大学で電子情報工学を専攻している事もあり、1か月に1回の当クラブでの米山奨学生報告ではよく専門の話をしてくれました。難しい専門の話をされても私たち門外漢にはさっぱりわからないのは彼女も分かっているので、俯瞰的に見て、こういう技術がどのように人間の役に立ち、幸福な社会を作れるかと言う風に話を易しくまとめます。彼女のように人と人との関係をうまく調和でき、共同体で生きることの大切さを知っている人こそ、これから先進的な技術を開発すれば、その技術は真に社会に貢献できるものになると思っています。

彼女とは親子以上に歳の差がありますが、話していくとにかく自然なので話が尽きることがありません。これはよく留学生で同じ国の出身者ばかりが集まり、何年たっても日本語が正確に話せない人がいる中、彼女は2年前初めて会った時に自分はあえて同じ国の友人を作らず、日本人の

友人の中に身を置くように努力したと言っていました。彼女の日本語が文法、語彙の使い方の正しさ、外国人と思わせない人間関係における気の使い方など努力の結果だと思います。これ

のことから彼女はきっと素晴らしい家庭で育ってきたお嬢さんだと思います。Being born with a silver spoon in her mouth.と言う言葉がありますがこれもまたまさに彼女に当てはまるこだと思います

彼女のカウンセラーを2年間やりましたが、我がRCの会員との交流も経て、より成長されたと感じております。

私も今期でカウンセラーの役は終わりですが、またいつか役が回ってきたときは喜んでやりたいと思っております。



奨学生としての学びと成長

私は、公益財団法人ロータリー米山記念奨学会の奨学生として支援を受ける中で、学業だけでなく人間的にも大きく成長することができました。この奨学金制度が単なる経済的支援に留まらないことを、大阪・吹田の地で体感した1年間は、日本の「おもてなし心」と世界の多様性が交差する奇跡的な日々となりました。特に印象深かったのは、ホストクラブである「吹田ロータリークラブ」の皆様との交流です。毎月第1木曜日の例会で頂く老舗料亭「松葉屋」の桜餅の甘さが、今でも記憶に残っています。人生の大先輩方の言葉の一つひとつが、私の進路に深い陰影を与えてくれました。グリーンワルト財団の岡本様が紅茶のカップを傾けながら語られた「GO INTERNATIONALな時代に必要なのは、異文化へのリスペクトだ」という言葉は、研究ノートの表紙に金文字で書き留めています。経営者の富永様が「仕事はやるときに一生懸命やるのが大事」と語られた姿からは、誠実に物事へ取り組む姿勢を学びました。このような交流を通じて、自分の価値観や将来のビジョンが次第に変化していくのを感じました。当初は「日本で化学研究者になること」を目指していましたが、多様な考え方に対する中で、「世界から認められるような研究者になる」

という、より広い視野を持つようになります。 RYLA（ロータリー青少年指導者養成プログラム）での経験は、まさに多様性の祭典でした。ドイツ出身の方からベトナム出身の仲間まで、さまざまな国の米山奨学生と出会い、共に語り合った時間は、私の人生の宝物です。夜遅くまで談話室で交わした議論では、教育制度の違いや文化の比較について、時に激論を交わしながらも、「多様性こそが解決策を生む」という共通認識にたどり着きました。特に心に残っているのは、参加者たちが母国語で「ありがとう」と教えてくれた30か国語の表現をまとめた「ありがとう集」です。私はそれを自分の研究ノートの表紙に貼っており、研究に行き詰ったときや迷ったときに、それを見ることで励まされています。国籍や言葉を超えたつながりの力を、実感する瞬間もあります。また、地域の清掃活動やチャリティイベント、異文化交流イベントなどの社会活動にも参加し、自国の文化を紹介する機会もありました。自分の活動が少しでも地域社会の役に立つことを実感し、社会に貢献する喜びを学びました。米山奨学会から得た最大の教訓は「知性は与えられるものではなく、分かち合うもの」という気付きです。米山奨学会を通じて得た経験は、私の人生においてかけがえ



2024-2025
インドネシア
吹田RC

EDRIC WILBERT

のない財産です。支援してくださったロータリークラブの皆様への感謝の気持ちちは尽きません。今後は、学んだ知識と経験を生かして社会に貢献し、将来的には自分も次の世代を応援できる立場になれるよう、努力を重ねていきたいと思っています。そして、常に「奉仕の精神」と「国際的な視点」を胸に抱きながら、世界に貢献できる研究者を目指して、一步一步、歩み続けてまいります。

メンティーと紡ぐ、小さな一歩からの絆



2019-2021
中国
宮崎北RC

趙 航

2021年度から関西米山学友会のメンターを務めさせていただいております。初めてのメンター経験で不安もありましたが、「相談相手として寄り添い、メンティーの成長を支えること」を目標に活動を続けてきました。昨年度は新規奨学生3名と継続奨

学生1名と共に、学びと交流の機会を大切にしながら、絆を深めています。

ご縁を育む小さな一歩

2024年4月の奨学生オリエンテーションにおいてLINEグループで自己紹介をし、5月の米山勉強会の後で食事会を企画しました。メンティー達の緊張を解くため、研究テーマや趣味について語り合う時間を作りました。最初は遠慮がちだったメンティーたちが、次第に笑顔で会話を楽しむ姿を見て、「異文化の架け橋」としてのメンターの役割を実感しました。

四つのテストと 「みんなのため」の精神

尊敬するロータリアンから教わった「四つのテスト」、特に「好意と友情を深めるか」「みんなのためになるか」を意識し、年間2回の食事会を開催しました。関西在住のメンティー同士が自然に助け合う関係になったこと

は、何よりの喜びです。

メンター活動で得た気づき

メンティーからは「研究の進め方」「日本での生活相談」などの質問を受ける一方、彼らの柔軟な発想や逆境に負けない姿勢に私自身が多くを学びました。

未来への願い

米山奨学金の理念である「奉仕の精神」と「国際理解」は、メンター活動を通じてさらに深く胸に刻まれました。これからもメンティーたちが自信を持って活躍できるようサポートし、彼らが将来、今の私のように「与える喜び」を感じられるよう願っています。

最後に、このような機会を与えてくださったロータリークラブの皆様、関西米山学友会の仲間に心から感謝申し上げます。

メンティーとして「言葉を超え、心で繋がる」

期待と微かな不安を胸に、米山奨学生として迎えられたあの日から早一年。過ぎ去った日々を振り返るたび、温かい記憶が蘇り、自然と笑みがこぼれます。初めての異国での生活で、慣れない環境に戸惑い、授業や日常生活に適応することに精一杯でした。そんな中、米山奨学生としての機会を得て、大きな支えとなつたのが、グループのメンターと、同じ志を持つ心強い仲間たちでした。メンターは太陽のような温かさで、私の不安を和らげてくださいました。同じ奨学生として出会った仲間たちも、言葉や文化の壁を越え、夢や悩みを共有し合える心強い存在です。また、米山での活動を通じて、故郷ミャンマーの文化や魅力をより多くの人々に伝えたいという思いを強く抱くようになりました。その思いが結実した出来事の一つが、2024年7月に開催された米山総会でした。総会において、メンターのおかげで私はミャンマーの

伝統的な水かけ祭りの踊りを披露する機会を得ることができたのです。鮮やかな民族衣装を身にまとい、日本の皆様だけでなく、世界各国から集まった米山奨学生の仲間たちと共に踊った時の高揚感は、今も鮮明に心に残っています。

また、これまで数多くのロータリー米山奨学活動に参加させていただき、光栄にも米山バンドの一員として活動させていただいております。言葉や国の壁を越え、音楽を通して皆様と心を繋ぎ、楽しい時間を共有できたことは、私の留学生活において、決して忘ることのできない大切な思い出です。

「自分のできることを広げ、そこから周りの人たちを支えよう。そして、自分の夢を叶えてくれている、日本と母国を繋ぐ架け橋になろう。」これは、私が日本での生活を通して強く心に刻んだ思いです。いつか、私が受けた恩を、今度は誰かに返していくように。



2024-2025
ミャンマー
大阪ユニバーサルシティRC

AYE NYEINT KO

そして、私の第二の故郷となった日本と、愛する故郷ミャンマーの架け橋となるように。これからも感謝の念を胸に、邁進して参ります。



米山バンドについて



2024-2026
台湾
大阪中之島RC

劉 德瑜

2024年4月、光栄なことに米山奨学生として選ばれ、中之島ロータリークラブに所属し、毎月の例会やイベントに参加してきました。しかし、奨学生同士の交流は大きなイベントのときに限られ、普段はあまり接点がありませんでした。そんな中、心の拠り所となつたのが「米山バンド Y.S.I」です。

このバンドは、泉ガバナーをはじめ、坂田先生や多くの関係者の方々のご支援のもと、様々な国から集まった留学生たちによって結成された、大人数のバンドです。メンバーは10人以上おり、

それぞれ忙しいスケジュールを調整しながら、音楽を通して楽しい時間を共有しています。楽器初心者やバンド初心者のメンバーも多いため、互いに教え合いながら、日々上達していく様子がとても励みになっています。

米山学友会のイベントや、さまざまな行事でパフォーマンスする機会も多

く、本番に向けて隔週土曜日に泉ガバナーの事務所に集まり、練習に励んでいます。私は主にアコースティックギターを担当していますが、バンド活動を通じて新たな楽器にも挑戦する機会に恵まれました。現在は、ベーシストとしてエレキギター、ドラム、ピアノ、バイオリン、ボーカルと一緒に曲を練習しています。これまでに演奏した曲には「M」「虹」「Stand by me」などがあり、今後は「小さな恋のうた」「大不正解」といったJ-POPにも挑戦する予定です。

米山バンドは、音楽の楽しさだけでなく、国境を越えた友情や協力の大切さを教えてくれる、私にとってかけがえのない場所となっています。これからもメンバーとともに成長し、よりよい音楽を届けられるよう頑張っていきたいと思います。



新たな一歩を支える日 — 1月18日の選考会を通して —

2025年1月18日、私たち米山関西学友会は、ロータリー米山記念奨学生の新奨学生選考会に、ヘルパーとして参加する機会をいただきました。かつて奨学生としてこの選考の場に立った私たちが、今回はその舞台の裏側から次の世代を支える役割を担つたのです。

当日は多くの応募者が、緊張と希望の入り混じった表情で会場を訪れました。私たち学友会は、受付業務をはじめ、会場への誘導や選考に関する説明などを担当し、応募者が安心して選考に臨めるよう心を込めて対応しました。面接やグループディスカッションはロータリアンの皆さんによって真摯に行われ、その姿は私たちにも大きな学びを教えてくれました。

この選考会では、私たち学友会とロータリアンが一体となって運営にあたることで、米山奨学生が経済支援であるとともに、人と人とのつながりを

育む場でもあることを改めて実感することができました。応募者一人ひとりに向き合うロータリアンのまなざしからは、将来の国際社会を担う人材を本気で育てようとする強い意志が伝わってきました。

私たちにとってこの日はいわば「恩返し」の時間でもありました。自分たちが受けた支援を、今度は次の世代に渡していく。そのバトンが手渡される瞬間に立ち会えたことを誇りに思います。

米山奨学生が築いてきた「絆」は、こうした機会を通して今も着実に広がっています。これからも私たち学友会は、奨学生とロータリアン、そして地域社会を結ぶ橋として、役割を果たしていきたいと願っています。



2020-2022
ネパール
大阪西北 RC

SHRESTHA, SUMAN



オリエンテーション



米山奨学生学友会 会長
2010-2011
中国
青森東RC

吳 偉偉

2024年4月3日に、2660地区の新規奨学生オリエンテーションが開催されました。

関西米山学友会からは頼会長をはじめ、10名の学友が運営のお手伝いに参加しまし

た。

今年度は、11の国と地域から35名の新規奨学生と、18名の継続奨学生、あわせて53名の奨学生を迎えることができました。また、米山奨学生制度は今年度、支援対象が131の国と地域から133の国と地域に拡大されたとのことです。

オリエンテーション当日は、新規奨学生の皆さんにとって、自分のカウンセラーと初めて対面する日であり、同時に「メンター」とも初めて顔を合わせる日でもありました。この「メンター制度」は2660地区の米山学友会が独自に始めた取り組みで、経験豊富な先輩学友たちがメンターとして、奨学生たち（メンティー）をサポートします。1人のメンターが3~4名のメンティーを担当します。

カウンセラーが“お父さん・お母さん”的存在であるなら、メンターは“お兄さん・お姉さん”的存在です。カウンセラーに対してどのように接すればよいか、クラブ例会に参加する際の注意点など、直接聞きづらいこと

をメンターに相談することができるので、よ

り安心してロータリーファミリーに馴染むことができます。こうして、楽しく充実した奨学生期間を過ごすことができ、さらに終了後には、先輩たちのように後輩の支えになりたいと思ってもらえることを願っています。実際に、前年度の奨学生の中には「自分もメンターになりたい」と申し出てくれた方もいました。

懇親会の際、奨学生とカウンセラーが和やかに会話をしている姿を見て、私自身が初めて奨学生として参加した日のことを思い出しました。世界中に85億人もいる中で、まったく接点のなかった2人が米山記念奨学生を通じて出会い、家族のような関係になつていくというのは、宝くじに当たるよりもはるかに奇跡的なご縁です。このご縁をどうか大切にしていただきたいと、改めて感じました。

米山奨学生事業の素晴らしさを再認識した、心温まる一日となりました。



勉強会を終えての振り返り

私は西南ロータリークラブにお世話をなっている王怡静です。関西大学文化交渉専攻博士後期課程の3年生です。

2024年5月18日、大阪日本語教育センターで開催された「ロータリー・米山勉強会」に参加しました。これはオリエンテーションの後、奨学生の皆さんと一緒に参加する、最初の行事でした。当日は、学友会の会長をはじめ、地区の学友、先輩方、そして奨学生の皆さんがとても親切に接してください、初めての参加にもかかわらず、私はこの「大家族」のような温かい雰囲気をすぐに感じることができました。

今回の勉強会を通じて、私はロータリーと米山記念奨学金制度について、より深く知ることができました。奨学生の皆さんにとっても、同様に有意義な学びの機会になったことだと思います。とくに印象的だったのは、質疑応答のセッションで、頼さんがとても親しみやすく、ユーモアを交えた語り口で、ロータリーと米山記念奨学金制度の大切なポイントを、楽しくわかりやすく説明してくださいました。また、地区奨学委員会の辻本委

員長からのお話では、会場全体がさらに一体感を増し、学びへの意欲が高まったように感じます。この勉強会をきっかけに、私は今後の奨学生生活にますます期待を抱くようになりました。ロータリーと米山記念奨学金制度への理解と感謝の気持ちがより一層強まりました。

勉強会の後半では、「感謝祭を企画しよう」というテーマのもと、奨学生たちはいくつかのグループに分かれて、積極的に意見を交換しました。国籍や地域、文化の異なる仲間たちと一緒に、感謝の気持ちを表すイベントを企画するという体験は、まさに米山奨学金ならではの貴重な機会であり、「奇跡」とも言える出会いだったと思います。発表の場では、どのグループもそれぞれの個性と創意工夫を活かし、自信をもって自らのアイデアを発表していました。私はその姿に大きな刺激を受け、自分自身もより積極的に行動していこうと心に誓いました。

今回の勉強会を通じて、私たちが「巨人の肩の上に立って世界を見ている」幸運な世代であることを、あらためて実感しました。だからこそ、今の生活を当たり前と思わず、



2024-2025
中国
大阪西南 RC

王 怡静

与えられた機会に感謝し、自分にできることを一つひとつ丁寧に積み重ねていきたいと思います。そしていつか、私自身もロータリアンの皆さんのように、次の世代にとっての「巨人」となれるような存在を目指して、努力を続けてまいります。





米山奨学生学友会 会長
2010-2011
中国
青森東RC

呉 偉偉

2024年7月7日、七夕の日に「2024年度米山総会および新規奨学生歓迎会」を開催いたしました。

七夕という特別な日にもかかわらず、200名以上の方々にご参加いただき、大変盛況な総会となりました。

この総会において、私も新年度の会長に選出されました。

これまで頼パスト会長のサポート役として活動しておりましたが、いざ自分が会長となり、優秀な学友役員の皆さんをリードしていく立場になったことで、大きなプレッシャーを感じました。

しかし、「関西米山学友会の役員は、皆

「広げよう・米山の絆」始動！ 2024年度総会開催

本当に仲が良く、互いに支え合いながら会をより盛り上げていこうという思いを持った仲間の集まりですので、安心してください」と、顧問を務めてくださっている何パスト会長から温かい言葉をいただき、少し気持ちが楽になりました。同時に、自分自身も精一杯頑張ろうと決意を新たにしました。

今年度のテーマは「広げよう・米山の絆」です。

関西米山学友同士の交流にとどまらず、他地区の学友会、さらには他のロータリー青少年団体との交流も深め、米山の絆をさらに広げていきたいという思いを込めて、このテーマを掲げました。

総会第一部では、ドクター・ネルソン学友による講演が行われました。幼少期から現在に至るまでの成功ストーリーや、留学中の体験談など、後輩たちの励みになるお話ををしていただきました。また、ネルソン学友がご自身で執筆された書籍も会場で販売され、その売上はすべて、震災で被災された能登の子どもたちに寄付されました。

第二部の懇親会では、新規奨学生の紹介が行われました。多くの国々から来日された

奨学生たちが、それぞれの民族衣装を身にまとい、自己紹介をされました。オリエンテーションからわずか3か月足らずですが、日本語も大変上達しており、緊張することなく堂々とスピーチされる姿に、皆さんの素晴らしいを感じました。

また、2025年大阪・関西万博や関西米山学友会設立40周年に向けた企画の発表も行われました。

余興の時間には、学友会による「みんなダンス」、EXPO2025共創チャレンジ「足が速くなるダンス」、そして米山バンドによる「米山の絆」の演奏も披露され、大変盛り上りました。

このような総会を通じて、現役奨学生・学友・ロータリアンの皆さまが、言葉や年齢の壁を越えて交流を深め、相互理解と絆を築くことができたと強く感じております。

今後も「広げよう・米山の絆」をテーマに、より多くのロータリーファミリーの皆さんと交流を深めてまいりたいと考えております。

引き続きのご支援、ご協力のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。



夢の舞台で心がつながる～宝塚観劇レポート～

前回予定されていた宝塚レクリエーションが、突然の事情でキャンセルになってしまったときは、本当に残念でした。楽しみにしていただけに、がっかりした気持ちを今でも覚えています。でも、去年9月にまたこうして機会をいただき、皆さんと一緒に観劇できたことは、とてもラッキーで嬉しいことでした。

私にとって宝塚は今回が初めてで、普段は電車の中吊り広告やポスターで見るくらい。どこか遠い世界のように感じていたのですが、実際に劇場に足を運び、舞台が始まると、その華やかさに一気に引き込まれてしまいました。まるで夢の中にいるようで、現実を忘れてしばらくの間、幻想的な世界に浸っていました。

舞台の豪華なセットやきらびやかな衣装、出演者の方々のキレのある動き

と美しい歌声、そして観客全体が作る一体感。それらすべてが一つになって、本当に特別な空間がそこにありました。「大阪って、こんなにすごい文化があるんだ！」と、日本の奥深さを改めて感じました。

そして何より印象的だったのは、異なる国や文化、世代を持つ私たち米山奨学生が、ロータリアンや学友会の皆

さんと一緒に同じ舞台を観て、同じ感動を共有できたことです。言葉や文化の違いなんて、この時間には関係なかったように思います。一緒に笑ったり、驚いたり、感想を語り合ったりする中で、自然と心が近づいた気がしました。

こんな素敵な体験をさせていただけたことに、心から感謝しています。またみんなで観劇できる日を楽しみにしています！



2024-2025
中国
大阪東RC

秦 莉





2024-2025
韓国
高槻東RC

金 ダソル

今回、2610地区学友会との合同活動「米山ボランティア交流会 in 輪島」に参加し、現地の被災地支援活動や学友同士の意見交換を通じて、多くの学びと気づきを得ました。

1日目は、石川県の兼六園を訪れた後、能登青少年交流の家で交流会が行われ、両地区の活動報告や今後の学友会のあり方について意見を交わしました。

「米山ボランティア交流会 in 輪島」に参加して

た。普段は異なる地域で活動しているロータリアンの方々とじっくり話すことができたので、自分たちの活動を見つめ直す良いきっかけとなりました。

また、2日目は、輪島市内で被災した学校への寄付の贈呈と、老人ホームの清掃活動を行いました。私の専攻は防災政策であり、今回のように震災後の地域の現場に足を運び、自ら手を動かすことは、机上の学びを実感として深める貴重な体験でした。大雨の中での活動でしたが、参加者全員が力を合わせることで、短時間でも目に見える成果を出せることができました。

その中でも、特に印象に残ったのは、地域の人々と協力を通じて、被災地が少しずつ日常を取り戻そうとしている姿と、それを支える多くの小さな力の積み重ねです。私は、政策を学

ぶ学生として社会問題を解決するには、地域コミュニティ内で「自ら行動する責任」を理解することが重要だと考えています。この考えは、私が米山奨学生としての活動を通じて、地域貢献や国際交流の重要性を実感し、さらに学びを深める動機となっています。

今回の経験を糧に、将来には、引き続き防災の現場と向き合いながら、韓国と日本の防災政策を推進する研究者として学びを深めていきたいと思います。また、ロータリーのネットワークを活用し、国際的な視野で防災対策を広め、より安全な社会づくりに貢献していきたいと考えています。

活動をご一緒にしてくださった皆さん、そして受け入れてくださった現地の方々に心より感謝申し上げます。



エンドポリオー私にできるポリオ支援

ポリオという病気は5歳未満の子どもが特に感染しやすいと言われています。ポリオを根絶することは、決して不可能なことではありません。それは大人や保護者などが子どものためにワクチンの接種を意識することでしょう。悲惨なことに、ガザ地区、アフガニスタン、パキスタンではポリオがまだ存在しているようです。ロータリーが世界中の子どもにポリオを根絶させようという約束をし、接種などの活動を行うために、「エンドポリオナウ」というイベントを定期的に開催し、それらのイベントで得た利益をワクチン購入に使用しているようです。このような意義あるキャンペーンの目的を知り、私も自分にできることを少しだけ役立てたいと思い、積極的に関わっていこうと決意しました。

2024年度の「エンドポリオナウ」でベトナム料理のブースで販売係をしたり米山バンドのシンガーとして歌を

歌ったりしました。イベントの会場で

「世界にポリオをフィニッシュさせよう」と考えている若手の方々に出会えて、充実した一日でした。

ロータリー米山学友会の一員として、私ができることは全国の学校でのセミナーを通じて宣伝を行うことです。一見、社会人に向けた宣伝のほうが多い募金を集められると思われるかもしれないが、募金の額だけが重要わけではありません。生徒達にポリオに関する知識を伝える義務があると思われます。多くの人々の応援を集めれば、様々なアイデアが生み出せるのではないかと考えられます。

私ができることは小さいだろうが、このキャンペーンのホームページにも記載してあるように「ポリオは根絶できると強く思います。みんなの力があれば、つまり一人一人の力を合わせて、ポリオは絶対この世界からなくなると信じています！



2024-2025
ベトナム
大阪 RC

LE NGOC QUYNH NHU



ポリオデーイベント報告



2019-2021
ベトナム
摂津 RC

VO NU TRUONG GIANG

昨年2024年10月20日に開催された「2024-2025年度 国際ロータリー第2660地区ローターアクト ポリオデーイベント」に、米山学友会の実行役員長として参加させていただきました。このイベントは「ポリオ根絶」を目指すロータリーの大きな取り組みの一つとして行われており、我々米山学友会のメンバーにとっても非常に意味のある活動となりました。

当日は、米山学友会としてベトナム料

理と中華料理のブースを出店しました。メニューは本格的な味にこだわり、どちらも多くの来場者の方々にご好評をいただきました。とくにベトナムの蒸し春巻きは「初めて食べたけど美味しい！」という声をたくさんいただき、私自身、自國の文化を紹介できただけで大きな喜びを感じました。中華料理も同様に人気で、開場から間もなくすべての商品が完売となり、達成感と感謝の気持ちでいっぱいになりました。また、今回のイベントでは米山学友会のメンバーによるバンド演奏も行いました。演奏だけでなく歌も披露し、会場を大いに盛り上げることができたと思います。このバンド演奏のために、我々は数か月前から毎週土曜日に集まり、真剣に練習を重ねてきました。それぞれ仕事や学業で忙しい中でも時間を作り、練習に励んできたことが本番の成功につながったと思います。練習を通じて、メンバー同士の信頼関係が一層深まり、学友会の団結力がより強くなりました。そして何より、ローターアクトクラブの方々との交流を通じて、お互いの活動への理解と尊重が生まれたことは大きな成果だと感じています。イベント当日だけでなく、その準備過程の中でも、私たちは多くの学びと成長の機会を得ました。

ローターアクトの皆さんとはとても親切で、

明るく、行動力に溢れていて、初めて参加した学友会メンバーもすぐに溶け込むことができました。イベント後の振り返りでも、今後はより密に協力し、地域や世界の課題に一緒に取り組んでいきたいという前向きな声が多く上がりました。私自身も、今回の経験を通して、ロータリーのネットワークの広さと力を改めて実感しました。今回のポリオデーイベントは、単なるボランティア活動ではなく、人と人との「つながり」を強く感じられる場でもありました。そして、日本社会の一員として貢献できたことに、深い誇りと感謝の気持ちを抱いています。今後も私は、米山学友会の活動を通じて、ロータリーが掲げる「超我的奉仕」の精神を胸に、地域社会や国際社会に貢献していきたいと考えています。また、ローターアクトの皆様とも引き続き協力し合いながら、次世代の留学生や若者たちの架け橋となるよう努めてまいります。

最後になりますが、今回のイベントの運営にご尽力くださいましたローターアクトクラブの皆様、参加を支えてくださいましたロータリークラブの皆様、そして温かく迎えてくださいましたすべての方々に心より御礼申し上げます。貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございました。

笑顔と音楽に包まれたクリスマス会

2024年のクリスマス会は、私にとって非常に印象深いイベントとなりました。私は主催者の一人として企画から当日の運営まで関わらせていただき、参加者の皆さんに楽しい時間を提供することの難しさとやりがいを実感しました。

会の準備は数ヶ月前から始まりました。プログラムの構成、会場の配置の調整、参加者への案内、店の予約や下調べなど、細かい部分まで多くの調整が必要でした。特に悩んだのは、年代や背景の異なる参加者全員が楽しめて、自然と参加できるような内容にすることでした。打ち合わせを重ねる中で、意見が分かれる場面もありましたが、「皆が楽しめて参加できる企画にしたい」という共通の思いが私たちを一つにしてくれました。

当日は、参加者の皆さんのが楽しそうな笑顔を見た瞬間、それまでの苦労

が一気に報われた気がしました。特にバンド演奏では会場の雰囲気が一段と盛り上がり、参加者と演奏者が一緒に歌いながら、まるでステージとフロアの境界がなくなったかのような一体感が生まれました。音楽を通して自然と一体感が生まれ、世代や言語を超えて会場が一つになったように感じました。その他のゲームなども好評で、会全体が温かく和やかな雰囲気に包まれていました。終了後には「とても楽しかった」といった嬉しい声を多くいただき、達成感とともに、来年に向けての意欲も湧いてきました。

このクリスマス会を通して感じたことは、イベントの成功には準備の丁寧さとチームの協力が欠かせないということです。また、相手の立場に立って考えることの大切さも改めて学びました。関係者として関わったからこそ得られた気づきが多く、私自身にとって



2019-2021
韓国
豊中南RC

申 ユリ

大変貴重な経験となりました。

今後も、こうした機会があれば積極的に関わり、多くの人に笑顔を届けられるよう努めていきたいと思います。





2023-2024
ベトナム
大阪御堂筋本町RC

HO DIEU LY (ホ・ジュウリ)

「第23回ロータリーXmas in USJ」に参加し、児童養護施設の子どもたちとユニバーサル・スタジオ・ジャパンで過ごした一日は、心温まる、忘れがたい時間となりました。子どもたちの笑顔は、言葉に表せないほど深く心に残り、その一瞬一瞬が宝物のように感じられました。最初は緊張していた子どもたちも、アトラクションを楽しみ、次第にリラックスしていきました。おしゃべりや遊びを通して、彼らの心が

「子どもたちの笑顔は、私たちへの贈りもの」

少しづつ開かれていく様子を見ることができ、その成長に触れることができたことに、大きな喜びを感じました。彼らの笑顔がこぼれる瞬間、私は心の底から「来てよかったです」と感じ、温かな気持ちに包まれました。特別なことをしているわけではなく、ただ一緒に歩き、笑い合い、何気ない会話を交わすだけでも、私たちの間に深い絆が生まれていることを実感しました。それがどんなに貴重で大切な時間であるかを、改めて考えさせられました。

一緒に過ごす時間が流れる中で、子どもたちの自然な反応や笑顔が、私にとって一番の贈り物でした。彼らがリラックスし、楽しんでいる姿を見ることができたことに心から感謝しています。

また、何気ない日常の一コマがこんなにも温かいものであることに気づかされ、私自身が多くのこと学び、感じることができました。

こうした素晴らしい時間が実現できたのは、大阪ユニバーサルシティロータリークラブの皆さんをはじめ、当日の準備や運営に尽力してくださった多くの方々のおかげです。皆さんのご協力のおかげで、子どもたちにとっても特別な一日となり、その思い出はきっと

長い間心に残ることでしょう。こうした活動が今後も末永く続き、さらに多くの子どもたちに笑顔を届けることができる事を、心より願っています。

また、この経験を通じて、改めて人とのつながりの尊さ、そして誰かに寄り添うことの温かさを深く感じました。私自身も、誰かの心に寄り添える存在でありたいと強く感じ、これからも周りの人々と共に心を通わせながら過ごしていきたいと思います。人と人とのつながりがどれほど大切で、かけがえのないものであるかを改めて実感し、その一瞬一瞬を大切にしていこうと心に誓いました。この経験は、私にとって今後の人生の大きな財産となることでしょう。



ロータリー米山の「愛」と「恩」

みんなさま、こんにちは！米山奨学生のベトナム出身のチャン・トゥ・ハです。世話クラブは枚方ロータリークラブです。

修了式を迎えてこの2年間を振り返ると、本当にあつという間だったと感じます。面接を終えて合格発表を待っていたときの不安、そして「米山奨学金に合格したよ」という知らせをもらったときの喜びは、今でも心に深く残っています。

オリエンテーションで初めてクラブの皆さん、他の奨学生、メンターとお会いしたときは緊張していましたが、新しい出会いに胸を高鳴らせたのを覚えています。その後の例会や懇親会では、いつも「元気？」、「勉強は順調？」と温かい言葉をかけていただき、異国での頑張る私を支えてくれました。米山奨学金は、単なる経済的な支援にとどまらず、夢を追い続ける私たちにとっての勇気であり、支えであり、希望そのものでした。

思うようにいかず悩むこともあります。しかし、例会でのスピーチを通じて自分の成長を感じ、ロータリークラブの皆さまの励ましのおかげで前に進むことができました。カウンセラーやクラブの皆さん、学友会のメンターと過ごした時間、米山での出会いと学びは、これから的人生を支える大きな宝物です。そして日本という国は、今では私の「第二の故郷」になりました。

一緒に歩んできた奨学生仲間にも心から感謝しています。異なる国や文化を背景に持つ私たちが、ときに悩み、ときに笑い合い、支え合った日々は決して忘れません。これからそれぞれの道を歩んでいきますが、ここで築いた絆は永遠です。

日本語の勉強する第一歩は50音から始まりました。最初の列は「あ・い・う・え・お」、そして最後の列には「わ・を・ん」が並びます。【あい=愛】から始まり、【をん=恩】で終わる日本語の素晴らしいを感じています。



2023-2025
ベトナム
枚方RC

TRAN THU HA

米山奨学生の生活も、その言葉どおり愛に支えられ、恩を胸に進む時間でした。これからは、この恩を忘れず、一步ずつ自分の道を歩んでいきたいと思います。



楽しく一緒に



2024-2025
韓国
東大阪東RC

李 知弦

こんにちは。24年度感謝祭の実行委員長だったイジヒヨンです。今回の感

謝祭のテーマは「WISH」でした。

私たちは奨学生としてロータリー
ファミリーの一員となり、

それぞれの夢を持ち、これから的人
生を歩んでいきます。希望を胸に、一
歩一步前へ進んでいく——そんな想
いを込めて、このテーマを選びました。

また、今回の感謝祭を通じて私が学
んだことと感じたことについて話した
いと思います。

最初は学業やボランティア活動、就
活などいろいろやることも多いの
に、感謝祭の委員長まですることが正
しい選択だったのだろうかという瞬間
もあったし、だんだん感謝祭の日が近
づくほど私はできないというプレッ
シャーで逃げ出したかった瞬間もあり
ました。

しかし、皆が力を合わせて完成しよ

うと努力する姿を見て、私も自責する
ことを止め、責任感を持ってますます
真剣に臨むようになりました。そして、
チームとして目標を持って動くことが
どれほど楽しいかを分かり、いつの間
にか感謝祭の仕事にはまっていました。

その結果、無事に感謝祭を終えるこ
とができ、自分自身も成長できるきっ
かけになりました。

実は自分に自信がなく、恥ずかし
がり屋で発表も苦手だった私でしたが、
米山奨学生になってから徐々に自信を
得ています。そういう意味で感謝祭は
私にとって大きなターニングポイント
でもありました。

短い期間でしたがおかげさまでたく
さんのことを学んでたくさんの思い出
を作ることができて本当にありがとうございます。



卓話を通じて伝えたかった思い

私は関西ロータリー米山学友会の役員として、茨木東ロータリークラブと摂津ロータリークラブに卓話の機会をいただき、米山学友会の活動などについて発表させていただきました。卓話の場に立つという貴重な経験を通じて、多くの学びと気づきを得ることができましたので、ここに感想を記させていただきます。私は大学生時代にロータリー米山記念奨学生を受け、多くのロータリーアンの皆様に温かく支えていただきました。異国での生活に不安や孤独を感じることもありましたが、カウンセラーの方をはじめ、ロータリーの方々の励ましやご配慮のおかげで、学業に専念することができました。卒業後も米山学友会の一員として活動を続けているのは、その恩返しの気持ちからです。

今回、卓話という形でロータリークラブの皆様に直接お話しする機会をいただき、大変光栄でした。私の話に熱心に耳を傾けてくださる皆様の姿がとても印象的で、あらためてロータリーの温かい精神に触れることができました。米山奨学生の仕組みや、学友会のボランティア活動、地域との交流イベ

ントなどについて紹介する中で、自分自身もこれまでの経験を振り返り、改めて感謝の気持ちを実感しました。卓話の後、多くの方々から励ましのお言葉やご質問をいただき、大変嬉しく思いました。皆様が外国人留学生の教育支援に深い关心を持ち、心を込めてサポートしてくださっていることを改めて知り、感動いたしました。特に、「卒業しても日本に残って社会に貢献しようとしているあなたの姿勢に感銘を受けた」というお言葉は、私の心中に深く残っています。これからもロータリーの精神を胸に、自分なりの形で社会に貢献していきたいと強く思いました。

また、卓話を通じて、ロータリーアンの皆様との距離がぐっと近くなつたように感じています。奨学生時代にはなかなか伝えきれなかった感謝の思いを、ようやく言葉にして直接届けることができたのではないかと思います。そして何より、皆様がとても優しく、温かく迎えてくださったことに心より感謝しております。今後も米山学友会の活動を通じて、次世代の留学生の支援や地域社会との橋渡し役として、少



2019-2021
ベトナム
摂津 RC

VO NU TRUONG
GIANG

しでもお役に立てるよう努めてまいります。そして、米山奨学生で得た学びやつながりを大切にしながら、日越両国の友好関係の発展にも貢献していくと考えております。

最後になりますが、今回このような貴重な機会を与えてくださったロータリークラブの皆様に心より感謝申し上げます。これからもどうぞご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願ひいたします。



2006-2007
台湾
やまと西和(旧王寺)RC

賴 香奈依

2024年7月より、2660地区の地区ロータリー学友会の委員会に出向することとなりました。「ロータリー学友会ってどんな学友会なの?」「どんな活動をしているグループなのかよく分からぬ」という声も多く耳にしますので、ここで簡単にご紹介させていただきます。

ロータリーの「学友」とは、ロータリーの教育的プログラムに参加した人を指します。2660地区では、ローターアクト、インタークト、ライラ (RYLA) 、ローテックス (青少年交換経験者) 、そして米山記念奨学生のOBOGである米山学友会、グローバル補助金による職業研修チーム (VTT) 、研究グループ交換 (GSE) などが含まれます。米山学友会を除き、いくつかのプログラムには年齢制限があるため、プログラム終了後は関わる機会が減ってしまうのが現状です。しかし、各プログラムを通じてロータリーと深く関わった仲間たちが、年齢を超えてつながり続けられる場が求められていました。

第2660地区ロータリー地区 学友会の活動について

このような背景のもと、2016-17年度松本進也がバナーの年度で、日本初のマルチプログラム型地区ロータリー学友会がここ第2660地区に誕生しました。2017年3月には国際ロータリー (RI) より加盟認証を受け、同年5月13日にはグランド白楽天にて加盟認証状伝達式が開催されました。ロータリー学友会は、すべての青少年プログラム卒業者および米山学友が年齢に関係なく所属できる、新しい形の学友会です。

毎年、総会や交流イベントを通じて、プログラムの枠を超えた横断的なつながりを促進し、社会活動や奉仕活動への新しいアイデアを育む機会を提供しています。また、ロータリーファミリーとしての絆を強化し、ロータリークラブやロータリアンとの連携を深める役割も担っています。

これまでの活動として、年に一度の総会を開催し、講演会や交流会などを通して会員同士の親睦を深めました。今年は新たな試みとして「春の2日間総会&BBQ交流会」を実施。1日目の4月19日にはオンライン (Zoom) で総会を開催し、翌日4月20日には野外でのBBQ交流会を行い、リラックスした雰囲気の中で、プログラムを超えたつながりがさらに深まりました。最後には、皆で片づけやゴミ拾いをし、集合写真を撮るなど、協力して一日を締めくくることができました。

このように、第2660地区ロータリー学友会は、卒業後もロータリーの理念である「超我の奉仕」を実践し続ける仲間たちがつながれる場として、温かなコミュニティを育んでいます。年齢やプログラムの違いを越え、互いに刺激を受け合いながら、より良い社会

貢献の形を模索しています。

今後は特に、本年度および次年度のガバナー、地区学友会委員会のロータリアンをはじめ、学友、現役米山奨学生、ご家族、ご友人など、より多くの関係者が気軽に参加できる開かれた交流の場づくりに力を入れてまいります。ロータリーファミリーとしての絆をさらに深め、誰もが活躍できるあたたかな場を目指して活動を続けていきたいと考えています。

私は現在、地区学友会メンバーとして2年目を迎えます。まだまだ学ぶことが多い立場ですが、これまでロータリープログラムに関わってこられた皆さんと力を合わせ、学友会のさらなる発展に貢献していくよう、努めてまいります。

今後とも、温かいご支援とご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願ひいたします。



関西米山学友会40年のあゆみ

■関西米山学友会の発足と現状

関西米山学友会は、1986年5月11日に265地区（現 2650）、266地区（現 2660）、268地区（現 2680）の米山奨学生学友によって設立されました。創立総会には29名が参加し、同年11月9日には初の交流懇親会が開催されました。以来、多くのロータリアンや学友の支えによって、現在の学友会が築かれています。

■会員構成

関西米山学友会は多国籍の学友によって構成されており、2012年には会費制度を廃止し、登録制会員制度へと移行しました。2024年末までの登録会員数は約510名となっています。会員は関西に勤務・居住する学友や、2660地区出身の学友で形成されており、2023年7月より正式名称が「国際ロータリー第2660米山奨学生学友会（関西）」に変更されました。

■活動内容

学友会では、会長をはじめ役員がそれぞれの役割を担い、年間を通じて様々な活動を企画・運営しています。

夏：総会

秋：研修交流会

冬：年末交流会

春：米山感謝会

また、地区主催の米山奨学生関連の行事にも積極的に協力し、海外や他地区の学友会総会へも参加しています。特に、米山世界大会は当学友会が最も力を入れて応援している活動のひとつです。

■学友会の意義と使命

国際親善・国際交流の架け橋となることこそが、関西米山学友会の最大の貢献であると、会員一同理解しています。現在、世界中に2万人以上の米山学友が存在し、この広がりが私たちの活動の支えであり、力となっています。長年の先輩方が築いてきた学友会を、さらに広げ、次世代へ継承していくことが私たちの使命です。

■40周年記念式典に向けて

2025年7月6日

関西米山学友会40周年記念式典を、皆さまとともに盛大に祝いましょう！



1987-1989
台灣
奈良RC

何 玉翠 (HO YUTSUI)

ロータリー米山奨学生学友会（関西）

2023/7~2024/6年度会計決算書

自2023年7月1日

至2024年6月30日

収入の部

科 目	金 額	備 考
前年度繰越金	2,512,146	
総会収入	810,000	
総会補助金	120,000	米山記念奨学会(40名x3,000)
交流活動収入	320,000	
交流活動補助金	84,000	米山記念奨学会(28名x3,000)
感謝祭収入	371,000	
特別補助金	300,000	第2660地区活動補助
会報補助金	43,155	会報40号(1,000部)
寄付金	194,000	
雑収入(利息・他)	10,009	
総計	4,764,310	

支出の部

科 目	金 額	備 考
奉仕活動費	60,000	
会報作成費	86,310	
世界大会費用	194,065	
感謝祭費用	439,756	
総会費用	951,362	
交流活動費用	290,847	
雑費	13,127	
運営費	32,936	
関西学友会40周年式典準備費用	200,000	
次年度への繰越金	2,495,907	
総計	4,764,310	

以上ご報告申し上げます。

2024年7月7日

会計 鄭詩穎

会計監査報告

会計監査の結果、会計収支決算書は適正と認めます。

会計監査 李麗俞

ロータリー米山奨学生学友会（関西）

2024/7~2025/6年度予算案

自2024年7月1日

至2025年6月30日

収入の部

科 目	金 額	備 考
前年度繰越金	2,495,907	
総会収入	920,000	
総会補助金	120,000	米山記念奨学会(40名x3,000)
交流活動収入	1,215,000	
交流活動補助金	90,000	米山記念奨学会(30名x3,000)
特別補助金	300,000	第2660地区活動補助
会報補助金	50,000	41号(1,500部)
寄付金	50,000	
総計	5,240,907	

支出の部

科 目	金 額	備 考
運営費	50,000	
会報作成費	100,000	
社会奉仕活動費	120,000	
総会費用	1,000,000	
交流活動費用	1,035,000	
感謝祭費用	440,000	
雑費	10,000	
次年度への繰越金	2,485,907	
総計	5,240,907	

以上ご報告申し上げます。

2024年7月7日

会計 梅 星

梅

梅 星

2024～2025年度現役奨学生



2024～2025年度現役奨学生



2024～2025年度現役奨学生



2024～2025年度役員

 <p>会長 吳 偉偉 2010-2011 青森東 RC 中国</p>	 <p>副会長 VO NU TRUONG GIANG 2019-2021 摂津 RC ベトナム</p>	 <p>幹事長 HO DIEU LY 2023-2024 大阪御堂筋本町 RC ベトナム</p>
 <p>会計 梅 星 2019-2020 大阪城東 RC 中国</p>	 <p>会計監査 李麗俞 1984-1986 奈良 RC 台湾</p>	 <p>顧問 何玉翠 1987-1989 奈良 RC 台湾</p>
 <p>理事 賴香奈依 2006-2007 やまと西和 RC (旧王寺 RC) 台湾</p>	 <p>理事 單雅婷 2012-2013 四條畷 RC 台湾</p>	 <p>理事 鄭詩穎 2018-2020 池田くれは RC 台湾</p>
 <p>理事 趙航 2019-2021 宮崎北 RC 中国</p>	 <p>理事 SHRESTHA SUMAN 2020-2022 大阪西北 RC ネパール</p>	 <p>理事 張昇勳 2017-2018 高知北 RC 韓国</p>
 <p>理事 王梓 2021-2022 大阪西南 RC 中国</p>	 <p>理事 申ユリ 2019-2021 豊中南 RC 韓国</p>	 <p>広報 鍾允順 2014-2015 池田くれは RC 台湾</p>
 <p>サブ理事 劉文婷 2019-2020 大阪中之島 RC 台湾</p>	 <p>サブ理事 陳玉芬 2020-2022 大阪中之島 RC 台湾</p>	 <p>サブ理事 張元享 2023-2024 大阪大淀 RC 台湾</p>

